

旅してみよう「おもしろい」神社仏閣 その7 三輪神社

愛知県の「おもしろい! (大阪弁)」神社仏閣の第7回目は年始なので、羊神社・伊奴神社に続き、またも干支にまつわる神社です。

2023年は《卯》年。本当は豊川市にある^{うたりの}菟足神社に行きたかったのですが、コロナ禍のため自粛し、中区大須にある「三輪神社」を訪ねました。神使がウサギですよ!



三輪神社



幸せのなでうさぎ

良縁・開運・幸福の「三輪神社」

賑やかな大須赤門の脇を入った所にある三輪神社。神域だけが喧噪から逃れ、ぽっかりと静かです。創建ははっきりしませんⁱⁱが、織田信長の妹婿の^{まきながきよ}牧長清ⁱⁱⁱが永禄年間(1558-1569)に再興した^{iv}とも言われます。尾張藩徳川家がこの三輪社を大事にしており、8代藩主の徳川宗勝が1745年に^{ごうりよくまい}合力米五斗を寄進^vして、尾張藩は明治維新まで代々それを続けたといえます。

祭神は^{おおものぬしのかみ}大物主神^{vi}です。ご利益は縁結びや開運など。大物主神は出雲大社の^{おおくにぬしのかみ}大国主神^{vii}と同一とされ、「因幡の白兔^{vi}」の由縁でウサギが神使となっています。拝殿前にある「幸せのなでうさぎ」は、撫でると幸福が頂けるとのこと。ちんまりとした境内のあちらこちらに、ウサギの像が置かれているので、見つけ出すのも楽しいです。

ちんまりとした境内のあちらこちらに、ウサギの像が置かれているので、見つけ出すのも楽しいです。

みどころ1 ~ご利益3倍の「三輪鳥居」~

入口で見つけられるのは、両袖がついたような「三輪鳥居」です。正面→左の鳥居→正面→右の鳥居→正面→左の鳥居→正面、と8の字にグルグルグルと回ってから入ると、ご利益が3倍になる…! とのこと。ぜひお試しください。



三輪鳥居 境内から



尾張徳川 矢場跡

みどころ2 ~徳川家ゆかりの「(目標・良縁を射抜く) 矢場」~

三輪神社境内地には、尾張藩の通し矢の修練場がありました。江戸時代初期、京都の^{れんげおうえん}蓮華王院^{vii}では「通し矢」が行われており、三十三間堂の端から矢を射て何本通せるかという腕比べで、尾張藩と紀州藩が熾烈な戦いを繰り広げていたそうです。1669年には尾張藩士の星野勘左衛門が一昼夜に10,542本中通し矢8,000本で天下一の称号を得ました。矢場町の由来となった場所です。

みどころ3 ~御朱印~

この三輪神社もまた、御朱印で有名なところですよ。限定御朱印が毎月数多くあり、どれを頂くか目移りしてしまいます。どの御朱印にも可愛いウサギが入っていますヨ。



みどころ4 ～縁結びの木～

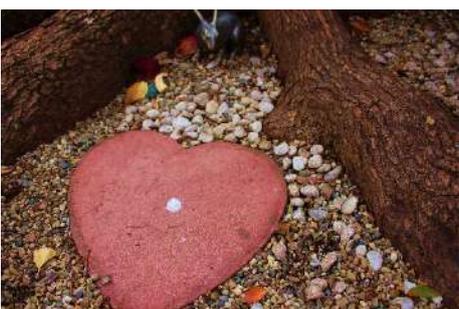
境内にあるご神木の「クスノキ」は樹齢450年と推定されます。防虫・防腐剤の「樟腦」の原料ともなるクスノキは、独特の匂いから「臭し」→「クス」となったとも、「薬の木」→「クスノキ」となったとも言われ、病気や害虫から身を守ってくれるため、木に手をあて祈ると良いそうです。また、大物主神の「三輪山伝説」^{viii}にあやかって、赤い糸を結び良縁を祈願する人も絶えないとのこと。



(にわか名古屋人・M)

その他境内写真

色々なウサギさんたちがいましたヨ！ ウサギ年もいい年であると良いですね。気が向いたら参拝して、たくさんウサギを見つけてみてくださいね。



i 三輪神社 (<https://miwajinnjya.com/>) 愛知県名古屋市中区大須 3-9-32

ii 『尾張志』に三輪社として「三輪町にあり大物主神をまつる」「はじめてここにうつし祭れる年月知がたし」とあります。(国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/764863> 16コマ)

iii 『尾張志』では牧長清は「信長公の妹を娶りて国中の幸ひ人栄花人に過たり」とあり、信長の妹を妻として尾張じゅうから羨ましがられたようです。(国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/764865> 89コマ)

iv 『愛知縣神社名鑑』には「古くは、三輪明神と称して永禄年間(1558-1569)小林城主牧与三右エ門長清再興し、天保年中(1830-1843年)改築する」とあるそうです(名古屋神社ガイド <https://jinja.nagoya/top/nakaku/osu-miwa-jinja> 参照)

v 同『愛知縣神社名鑑(愛知県神社庁編1992.8)』(名古屋神社ガイド <https://jinja.nagoya/top/nakaku/osu-miwa-jinja> 参照)

vi 『古事記』に見られるウサギと大国主の神話。隠岐島からワニザメをだまし、稲羽に渡ったウサギは、ワニザメに毛を剥がれてしまい、また通りがかった大国主の兄弟神たちに「海水を浴びて風にあたって伏せていれば治る」と言われ、その通りにしていたら体中の皮が裂け、痛みに苦しんでいた。そこで大国主が「真水で体を洗い、ガマの穂を取って敷き、その上を転がって花粉を付ければ必ず癒えるだろう」と言い、ウサギがその通りにするとたちまち治ったという。

vii 蓮華王院 三十三間堂 (<http://sanjusangendo.jp/>)

viii 『古事記』に見られる三輪山の伝説。活玉依毘売のもとに毎晩美しい男が夜這いに来て、毘売は子を身ごもったが、名も知らない立派な若者であった。両親は若者の正体を知るため、赤土を床にまき、糸巻きの麻糸を針に通して若者の衣の裾に刺せと教えた。翌朝、針につけた糸は戸の鍵穴から出て、後に残っていた糸巻きは三勾(三巻き)だった。糸をたどると三輪山の社まで続いていた。三勾残っていたから、この地を三輪と呼ぶようになったという。